

商品名 ガベキサートメシル酸塩注射用500mg「タカタ」 添付文書情報

一般名	ガベキサートメシル酸塩500mg注射用	薬価	486.00
規格	500mg 1瓶	区分	(劇)
製造メーカー	高田製薬	販売メーカー	高田製薬
薬効	3. 代謝性医薬品 39. その他の代謝性医薬品 399. 他に分類されない代謝性医薬品 3999. 他に分類されないその他の代謝性 医薬品		

ガベキサートメシル酸塩注射用500mg「タカタ」の用法・用量

通常成人1日量ガベキサートメシル酸塩として20～39mg/kgの範囲内で24時間かけて静脈内に持続投与する。

【用法及び用量に関連する注意】

〈汎発性血管内血液凝固症〉本剤は高濃度で血管内壁を障害し、注射部位及び刺入した血管に沿って静脈炎や硬結、潰瘍・壊死を起こすことがあるので、末梢血管から投与する場合、本剤100mgあたり50mL以上の輸液（0.2%以下）で点滴静注することが望ましい。

ガベキサートメシル酸塩注射用500mg「タカタ」の効能・効果

汎発性血管内血液凝固症。

ガベキサートメシル酸塩注射用500mg「タカタ」の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

1. 重大な副作用：

- 1) ショック、アナフィラキシーショック（いずれも頻度不明）：ショック、アナフィラキシーショック（血圧低下、呼吸困難、意識消失、咽頭浮腫・喉頭浮腫等）があらわれることがある。
- 2) アナフィラキシー（頻度不明）：アナフィラキシー（呼吸困難、咽頭浮腫・喉頭浮腫等）があらわれることがある。
- 3) 注射部位の皮膚潰瘍・壊死（頻度不明）：本剤の濃度が高くなると、血管内壁を障害し、注射部位及び刺入した血管に沿って静脈炎や硬結、潰瘍・壊死を起こすことがあるので、注射部位の血管痛、発赤、炎症等があらわれた場合には投与部位の変更又は投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) 無顆粒球症、白血球減少、血小板減少（いずれも頻度不明）。
- 5) 高カリウム血症（頻度不明）。

2. その他の副作用：

- [1] 過敏症：（0.1～1%未満）発疹、そう痒感等。
- [2] 出血傾向：（頻度不明）出血傾向亢進。
- [3] 血液：（頻度不明）好酸球増多、顆粒球減少。
- [4] 循環器：（0.1～1%未満）血圧降下。
- [5] 肝臓：（0.1～1%未満）黄疸、AST上昇等、（頻度不明）総ビリルビン上昇、ALT上昇等。
- [6] その他：（0.1～1%未満）悪心、（頻度不明）顔面潮紅、発熱、低ナトリウム血症。

ガベキサートメシル酸塩注射用500mg「タカタ」の使用上の注意

【禁忌】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。

【重要な基本的注意】

ショック、アナフィラキシーショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、十分な問診と救急処置のとれる準備を行い、投与にあたっては観察を十分に行い、血圧低下、発赤、そう痒、不快感、嘔気等の症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、大量投与は避けること（大量（100mg/kg/日）投与でマウスに胎仔体重増加抑制が認められている）。

【授乳婦】

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

【高齢者】

減量するなど注意すること（一般に生理機能が低下している）。

【適用上の注意】

1. 薬剤投与時の注意：

- 1) 点滴静注する場合、投与速度が増加すると血圧低下することがあるので、ガベキサートメシル酸塩として体重1kg当たり毎時2.5mg以下とすることが望ましい。
- 2) 薬液が血管外へ漏れると、注射部位に潰瘍・壊死を起こすことがあるので、薬液が血管外へ漏出しないよう注意すること。血液うっ滞が起こらないようできるだけ太い血管より投与すること。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.